

マメ科牧草の播種期について

馬場元司 (佐賀県畜産試験場)

Motoshi BABA : Effects of Seeding times on the Growth of Forage Legumes

マメ科牧草は、水田転作による飼料作物の面積拡大、連作障害の回避及び地力の回復、家畜の栄養面からも作付の必要性が生じている。そこで、栽培の基礎資料を得るため播種期試験を行ったので報告する。

1. 試験方法

1) 耕種概要 ①供試草種 第1表に示した5草種、②播種期 1986年9月4日, 22日, 10月4日, 24日, 11月21日の5回(9月22日播は、早ばつにより発芽不良のため除外)、③播種法 条間50cmの条播、④試験区 2m×3mの2区制、⑤施肥(成分量, kg/a)元肥0.3-0.5-0.5, 追肥0-1.0-1.0、⑥播種量 クリムソクローバ0.2, レンゲ0.15, 他は0.1kg/a、⑦刈取ステージ 開花期。

2) 気象概況 生育期間中の平均気温は、9月下旬から12月上旬までは平年に比し低温に推移した。しかし、冬期間は高かった。降水量は、9月下旬から10月中旬までは少なく、土壌は乾燥した。

2. 結果及び考察

マメ科牧草の播種期は、旬平均気温で25~17℃(当地域では9月上旬~10月中旬)であると思われたが、草種によって播種期の変化に対する生育反応は異なった。

1) レンゲは、供試した5草種の中では10月4日播に対して9月4日播は草丈、収量ともに多くなり、早播の効果が見られた(第1, 2表)。したがって当地域では9月

上~中旬が播種適期と思われるが、レンゲは初期生育が遅く、収量も少ないことから今後さらに根粒菌、品種を含め増収栽培法の検討が必要である。

2) クリムソクローバは、発芽や初期生育が最も良く、播種期の幅は広いが、収穫期がレンゲと同じく4月下旬と早いので、播種期は9月中~下旬と思われ、早播きの効果がみられた。

3) アルサイクローバは、初期生育が悪く、気温に対する反応も小さかったが、春になり日長が長く、気温が高くなる時期の生育は旺盛であった。早播きの効果はクリムソンとアカクローバの中間的であった。

4) アカクローバは、9月4日と10月4日播の刈取時の草丈の差は小さく、播種適期は9月下旬から10月上旬

第3表 マメ科牧草の収量 (kg/a)

草 種	生 草 収 量				乾物 収量
	1985	1986	1987	平均	
レ ン ゲ	—	306	303	—	—
クリムソンC	658	678	729	688	77.9
アルサイクC	598	541	496	545	76.3
ア カ C	500	430	548	492	85.5
アローリーフC	575	618	311	501	75.3

注) 乾物収量は、3カ年の平均値

(20℃前後)である。

5) アローリーフクローバは、本年(1987年)の生育、収量は劣った(第3表)が、播種適期は10月上旬であると思われた。

第1表 播種期別の刈取時草丈

草 種	草 丈 (cm)				比 率 (%)			
	9/4	10/4	10/24	11/21	9/4	10/4	10/24	11/21
レ ン ゲ	63	47	35	24	134	100	74	51
クリムソンC	82	62	61	37	132	100	98	60
アルサイクC	115	114	92	77	101	100	81	68
ア カ C	120	126	104	89	95	100	83	71
アローリーフC	101	114	88	68	89	100	77	60

第2表 播種期別の乾物収量

草 種	乾 物 収 量 (kg/a)				比 率 (%)			
	9/4	10/4	10/24	11/21	9/4	10/4	10/24	11/21
レ ン ゲ	33.3	18.8	9.8	4.9	177	100	52	26
クリムソンC	80.2	46.0	43.0	14.5	174	100	93	32
アルサイクC	72.9	50.9	44.6	36.9	143	100	88	72
ア カ C	102.3	85.5	62.3	50.3	120	100	73	59
アローリーフC	48.8	53.1	37.2	28.1	92	100	70	53